

NO FENCE

vol. 58 2020年2月



〒102-0093 千代田区平河町 1-5-7-203

nofenceinfo@gmail.com

<http://nofence.jp/>

【小特集】北朝鮮の実態——著書と講演会 紹介

会員の方の賀状に「北朝鮮の実態が知りたいです」という添え書きがありましたので新年最初のこの会報は二冊の著書を紹介して、少しばかりそれにお応えし、合わせて考えていることを記したいと思います(小川 晴久)。

〈著書〉から

『ソングジュの見た星—路上で生きぬいた少年』(リ・ソングジュ&スーザン・マクレランド著、徳間書店、2019年5月刊) 昨年日本語版が出ていたのですが、今年に入って初めて読みました。原作は“Every Falling Star”という英語版です。お父さんが軍人で核心階層で平壤で生活していたのですが、お父さんが政治犯になり、一家が地方に移住させられ、父母が食糧を求めて父は中国に、母は他の地方都市に出かけて、主人公はコッチェビ(浮浪児)になります。主人公が11歳位の時です。主人公は16歳の時に脱北して韓国に亡命しますので、この記録文学は5年間のコッチェビ生活の記録なのですが、平壤でテコンド(空手)の訓練を受けていたことが役立ち、6・7人のコッチェビ集団のリーダーになり、都市を渡り歩いて、行く先々のコッチェビ集団と格闘しながら生き抜いていく記録です。北朝鮮でコッチェビが出始めるのは1993年頃からで、食糧危機が始まり、配給制度も崩壊し、1990年代後半の苦難の行軍時代と、コッチェビたちは大量に出続けます。現在も特に地方では食糧難が続いていますので、総数になると相当の数になります。1990年代のコッチェビたちは今20代後半から30になろうとしていると言われます。実は後で紹介する2月8日に守る会主催の講演会で木下公勝さんが紹介する話の一つが30歳になんなんとするコッチェビ集団(かなりの規模の)の話ですが、今回本書を読んで、かなり似た話が本書に出ていることに気づきました。昨日の守る会の世話人会でこの話をしたら、事務局長の木村亮さんが、2年前の2018年1月20日『自由を盗んだ少年』の著者金革氏の講演会で彼が老人の浮浪者も入れると人口の1割230万の数になると言っていましたよと教えてくれました。本紙会報47号をご覧ください。コッチェビ集団が北朝鮮社会の中で大きな存在になりつつあることに注目してください。

『北朝鮮「楽園」の残骸』(マイク・ブラッケ著、草思社、2003年9月刊)

本書は16年も前の北朝鮮の紹介ですから、少し古い情報といわれるかもしれませんが、最近再読してみて、とても重要な北朝鮮の実態と現状を伝えてくれる本です。北朝鮮の実情を知ろうとすると、変化を知りたい欲求が強いですが、全然変わっていないところも実態であり、現状です。東ドイツの青年が3年半医療支援で北朝鮮の全土を実地に見た報告は、特に地方(田舎)の人々の考え方を良く伝えてくれて大変貴重です。北朝鮮は金一族の嘘で作り上げた神話を生きている社会であるという指摘は、北の本質を突いています。平壤以外は全て田舎で、田舎の人々は全く恵まれない生活をしていることを、本書で知ってください。田舎の子供は病気になっても全く見放されているという驚くべき指摘があります。また田舎の人は事業に責任を取るという意識がないといえます。

(北の実態を知る他の方法) 今回は二冊の本を上げましたが、NOFENCEのバックナンバーをファイルして、それをお読みください。この2〜3年間の会報は講演会記録を載せていますが、そこで描かれているのが北の実態です。最新情報です。また本会会員の高島淑郎氏のグループが近年行っているVenaTVで行われている脱北者インタビューの起こし「北朝鮮翻訳会」(51回のレジメ)をホーム・ページを開いて、お読みになるのも、大事な方法です。ホーム・ページアドレス <http://r.goope.jp/5yotuyanagi>

講演会案内(守る会主催)

日時 2020年2月8日(土)午後1時半〜4時半

場所 人権ライブラリー(港区芝大門2-10-12)tel 03-5777-1919

(アクセス:<http://www.jinken-library.jp/access>)

講演①「私が掴んだ北朝鮮最新情勢」

脱北民 木下公勝さん

②『ソングジュの見た星一路上で生きぬいた少年』(徳間書店)を読んで

小川 晴久名誉共同代表

直前のご案内で恐縮です。上記①がメインです(小川)。

北朝鮮の人道犯罪を止める国際 NGO 連合 (ICNK)が 今度は安倍首相に手紙 (近日中に)

NO FENCE として賛同署名しました。書簡は次頁に。

北朝鮮人権問題に関する日本政府の近時の関与低下に関する公開書簡

内閣総理大臣 安倍晋三殿

国連人権理事会の3月の会期に先立ち、●●の非政府組織、連合体、および関係する個人を代表し、朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）における人権問題について日本政府が最近関与を弱めていることについて、書簡を差し上げる次第です。

まず私どもは、日本政府が、安倍総理のリーダーシップのもと、2013年の北朝鮮人権状況国連調査委員会の設置決議やその調査結果受入れに関する決議など、国連人権理事会における北朝鮮決議の主提案国として果たしてきた重要な役割を認識しております。調査委員会は、北朝鮮政府が同国民への人道に対する罪（超法規的処刑、拷問、組織的なレイプなどの残虐行為）を多数犯したことに加えて、日本人を含む外国人に対しても過去において拉致などの犯罪を行ったと結論づけました。

日本政府のリーダーシップの後押しを受けて、2014年から2017年にかけて国連安全保障理事会で北朝鮮の人権状況について討論がおこなわれるなど、北朝鮮政府に対する前例のない国際的圧力が維持されました。国連で北朝鮮への注目が集まったことで、北朝鮮での人権侵害と、地域および世界の平和と安全保障との間の密接なつながりも、ある程度焦点化され、北朝鮮政府に対して、国連メカニズムと協力し、拉致問題を含めた人権問題を解決するようにとの圧力が改めてかかりました。こうした事態の前向きな進展は、安倍総理のリーダーシップと日本政府の尽力なしには実現できないものでした。

こうした経緯を踏まえますと、私どもは昨年2019年、日本政府が人権理事会における北朝鮮人権決議案の共同提出を見送るとの決定に大いに当惑しました。菅官房長官は2019年3月、「（2月末の）米朝首脳会談の結果や、拉致問題などを取り巻く諸情勢を総合的に検討した結果」、政府として方針を変更したと述べるとともに、北朝鮮の人権状況の改善を追求していくことは変わらないとも付け加えました。同日付の朝日新聞は、日本政府関係者の発言を引用するかたちで「『人権について国際社会から批判されることを北朝鮮は嫌がっている』と説明。非難決議案の見送りは『北朝鮮の態度を変えるため、試す価値がある』と話した」と報じています。また総理は2019年5月に、北朝鮮の最高指導者の金正恩・朝鮮労働党委員長に前提条件を設けずに直接向き合うと表明し、拉致問題に進展がなければ首脳会談は行わないという従来の方針を転換されました。

北朝鮮政府は、国内人権状況の批判に対し、敵対的な反応をすることが多いことは、私どもも承知しています。しかし、金正恩政権への圧力を和らげても、人権状況の改善や拉致問題の解決が実現する見込みはありません。むしろ白旗は、北朝鮮の虚勢に助け船を出すことになります。代償を払うことなく人権侵害を継続できるというメッセージを送ってしまうのです。

対話と公的な人権批判は排他的な関係にはありません。私どもは、北朝鮮の人権問題を提起し続けることは、日本人拉致問題の解決を進展させるため実際上不可欠だと考えます。国連調査委員会がしたように、拉致を残虐行為と示すことで、日本政府は北朝鮮政府に対し、自国の行為に向き合うよう説得できます。調査委員会報告書に対する北朝鮮政府の反応は、金正恩委員長が自国政府の人権状況の報告にきわめて敏感であること、また同氏に批判を受け止めさせるには、そうした圧力の継続がきわめて重要であることの証左です。対照的に、国際的な圧力が和らいでいることで、北朝鮮政府は、あの劣悪な自国の状況改善しないことで負う政治的コストが緩和されています。

また、国際社会の関心事である朝鮮半島の非核化実現には、人権面での進展が当然必要です。外交政策専門家や宗教指導者、人権活動家がたびたび指摘しているように、人権と武器不拡散への取り組みは密接不可分であるからです。

北朝鮮の人権状況に関する国連特別報告者であるトマス・オヘア・キンタナ氏は2019年10月24日、国連総会で発言し、各国政府に対し、交渉では人権問題を棚上げすることなく、北朝鮮との建設的な対話の道を探ることを求めました。氏は「基本的人権を現在の交渉に統合することは、朝鮮半島とそれを越えた地域に非核化と平和をもたらす、あらゆる合意を持続させるうえできわめて重要である」ことに留意しました。

私どももまったく同意見です。

私どもは安倍総理に対し、近時の方針を修正し、北朝鮮に関する今年の国連人権理事会決議には主提案国として戻るとともに同国政府との交渉で人権問題にプライオリティを置いて、日本がこれまでとってきた北朝鮮に関する人権重視外交を再び高く掲げるよう、強く要請する次第です。

本件についてご検討いただきますようお願いいたします。また総理スタッフと詳しく協議する場をいただければ幸いです。

敬具

今なぜ金慶喜(金敬姫)再登場なのか

宋 允復(本会副代表)

(注) 本会報 55 号(2019 年 10 月)の姜哲煥氏講演内容の三に反する報道がなされたので、宋允復氏に急遽紹介してもらいました。金慶喜は朝鮮総連系の表記。金敬姫は日本のマスコミ表記。

「1 月 25 日の旧正月記念公演に金慶喜が姿を現した」という。2019 年 9 月以来、北朝鮮の公式メディアによる 6 年ぶりの動静報道であり、耳目を引いた。

なぜなら金慶喜をめぐるのはこの間、死亡説、他殺説が膾炙していたからだ。

この他殺説に大きく光を当てるきっかけをもたらしたのは、労働党 39 号室の高官で 2014 年 10 月に韓国に亡命し、2016 年に米国に再亡命した李正浩氏だった。韓国在住だった 2015 年に CNN と匿名でインタビューした際、「夫張成沢を殺すことに反対していた金慶喜を 2014 年 5 月に金正恩の命で毒殺したと聞いた」と語った。

当時、この毒殺説について国家情報院は、韓国国会情報委員会でのブリーフィングで「金慶喜は平壤近郊で療養中であり生存を確認している」と否定。だが、複数の脱北者が「こちらの情報源も殺害されたと伝えてきた」として毒殺説を開陳してきた。

他殺説を唱えてきた者の一部は、今回の動静報道について「あれは本人ではなくそっくりさんだ」と主張。これに対して元国情院の金正奉氏は「金慶喜が死んだのなら北で国葬を執り行うはずであり、死亡説は事実ではないと指摘してきた。毒殺説に触れ回った者たちは恥を知るべきだ」などと公言し、応酬が展開されている。

この渦中で宋が注目したのは太永浩の見解だった。

著書の日本語訳版『三階書記室の暗号 北朝鮮外交秘録』(文芸春秋)347 頁には、金正哲がロンドンに向け平壤を離れる前日に挨拶に訪ねた先で酒を勧められて過飲した、「先方は酒を飲めないのに、私にばかり酒を注ぐので飲み過ぎた」と語った、とある。

正哲が挨拶に伺う先といえば金正恩しかないはずだが、金正恩は大酒のみであり「飲めない」はずはない。いったい誰なのか、いまだにこの謎が解けない、とある。

しかし、今回の動静報道で謎が解けた、と太氏はいう。正哲が挨拶に訪れた相手は金慶喜だったのだ、と。

金慶喜はアルコール中毒と知られてきたが、2013 年の張成沢の肅清以降、金正恩の後見人として家門を守るために酒を断ち節制に努めたのだろう。

張成沢の肅清も金慶喜の黙認・支持がなければ不可能。金正恩と金慶喜の共同作業であったが故に他の幹部たちも従わざるを得なかった。金慶喜ラインであった崔龍海、朴奉珠らがその後も高位に留まり続けたのも、この見立てを裏付ける、とする。

追悼

草思社の編集部次長増田敦子さんが去る 1 月 14 日 64 歳で逝去され

ました。私の本『北朝鮮いまだ存在する強制収容所』(2012 年刊)を作ってくださいました。謹んで哀悼の意を表します(小川 晴久)。